# 最優秀 LOM 持続可能な開発目標プロジェクト Best Local Global Goals Project

#### LOM 名

長野青年会議所

#### 基本情報

#### 事業名

NAGANO CONFERENCE 2019~あなたの行動が持 続可能な長野市をつくる~

#### 目的

長野青年会議所が1年間を通じて行なってきた、SDGsと紐づけた 様々な事業の発信を通じて

- ■一般市民に対して
- ・SDGSが身近なものであることを知り、関心を持つ機会とする。
- ・日常生活の中でも、SDGSの目標達成に向け行動する意識を高める。 ・多くの団体と協働することで、地域社会に対してSDGSを普及する 機会とする。
- ■メンバーに対して
- ・1年間の集大成の場として全メンバーが協力して事業に携わることで、 LOMの結束をより強固にする。
- ・メンバーも市民の一人としてプログラムに参加することで、SDGs への理解をさらに深める。

#### 開始日※日付で記載

2019年11月23日

#### 終了日※日付で記載

2019年11月23日

#### 事業対象者

長野市民合計 820名

長野青年会議所正会員 114名

長野青年会議所準会員 33名

# SDGs の該当項目

該当項目を1つのみ選択

ゴール17「パートナーシップで目標を達成しよう」

Active Citizen Framework「展開」の項目での3項目の発展段階から 選択 ①健康な身体と精神 ②教育と経済力強化 ③平和・繁栄・持続 可能性

③平和・繁栄・持続可能性

長野県は「SDGs未来都市」として選定されており、長野市もSDGsに即した事業を行なうなど自治体としてのSDGsの先進度は高い とされています。

しかし市民に対する推進力は弱く、SDGsを浸透させるためにはより 層のアプローチが必要な状況でした。

そこで、1年間を通じてSDGsの理解や推進に取り組んできた長野青 年会議所が発信源となり、市民のSDGSに対するイメージに改革を起 こし、SDGSのゴール達成のために自ら行動を起こすきっかけとしま

また、地域の中小企業や団体と協働することで地域社会に対してもSD Gsを普及する機会とし、SDGs先進都市への大きな足掛かりとしま

当日は大型施設の2階分を使って市民にSDGsについて知り、理解を 深めてもらうためのファンクションやワークショップ等の取り組みを 行ないました。

1. SDG s 講演ファンクション SDG s のインフルエンサーとして著名な芸人を講師としてお招きしました。親しみやすい講演を通して、SDG s の必要性を知ってもらう 機会を作りました。

SDGs啓発ファンクション

SDGSの目標達成のために自分がすぐにできる行動を考え、宣言とし てカードへ記入していただきました。SDGsやその目標達成に向けた活動は決して難しくない事を知ってもらい、自ら行動する意欲を高める ことにつなげました。

3. SDGs協働ファンクション 地域の高校生が中心となり、ゴール11と14の達成に向けたグループ ディスカッションを行ないました。若者がSDGsについて考えるきっ かけを作る事で、より知識を深める事へとつなげました。

4. SDGs体験ファンクション カードゲームを通じてSDGsの課題の解決策を考えることで、SDG

#### 申請担当者名

長坂洋平

#### **Basic Information**

#### Name

SDGs Big Bang

# Purpose

Through the running of various projects linked to SDGs that JCI Nagano has been conducting throughout the year;

<For the citizen>

- It provides the opportunity to educate others that SDGs are familiar and to attract interest.
- It raises an awareness of taking action to achieve SDGs goals in everyday life.
- It provides the opportunity to spread SDGs to local communities by working with multiple organizations.
- <For NJC member>
- All members cooperate in the project in which is a place for consolidating the year's work, thereby strengthening the unity of
- To further understand about SDGs, we should take a part in this program positively.

#### Start date

JCI ウェブフォームは、カレンダーから選択方式なので記載不要。

#### End date

JCI ウェブフォームは、カレンダーから選択方式なので記載不要。

#### Target

820 Nagano City citizens

114 JCI Nagano regular members

33 JCI Nagano associate members

#### Sd goal

#### Development stage

"Health and Wellness" • "Education and Economic Empowerment"・"Peace, Prosperity, and Sustainability"から選択

Peace, Prosperity, and Sustainability

# Overview

Nagano Prefecture is selected along with the "SDGs Future City" in Japan. Nagano City set a same goal of Nagano Prefecture set, the projects are along to the gidelines of SDGs. Although the approach to convey the reasons of what Nagano city wants to do to achieve the SDGs goals with the citizen is weak, it needs to take an even greater approach in order to make SDGs permeate to citizens.

Therefore, JCI Nagano, which has been working on understanding and promoting SDGs throughout the year, became the source of information, by recreating an impression of SDGs on citizens and took action for achieving SDGs goals.

In addition, we provided an opportunity to spread SDGs to the local community as a great stepping-stone to be a city with advanced SDGs by working with local small and medium-sized enterprises and organizations.

At that day, we held a function activity and workshops so that citizens could learn about SDGs and their city. The event was opened at the second floor of one of a huge shopping and meeting center in Nagano city.

- 1. SDGs Lecture Function
- We invited a famous SDGs practitioner, known as a famous comedian in Japan, to understand the meaning and necessity to the citizen and JCI member.
- 2. SDGs Function of Enlightenment
- Thinking the possible things what the participants will be able to do to achieve SDGs goals, and write it down to a card to show their declaration. We let them know that the practice of SDGs and the activity to achieving the goals are not difficult so much, the awareness was turned to the motivation of practicing by themselves.
- 3. SDGs Function of Collaboration

- s を身近なものとして感じてもらうきっかけとしました。
- 5. スポーツのちからと共生を考えるフォーラム
- SDGsで子どもの未来を考える会

地元出身の元プロロードレーサーを迎え、スポーツを通してハンデの有 無で差別されない共生社会を実現するためのフォーラムを開催しました。フォーラム後にはパラリンピックの正式種目でもあるボッチャの体 験を通じ、年齢や性別、障がいのあるなしにかかわらず共に競い合える ことを、子どもたちが知る機会を作りました。

- 7. 長野灯明まつり切り絵ワークショップ
- 8. 長野びんずる市民討議会

地域の2大祭りの今後の在り方を市民と共に考えました。身近にある 地元のお祭りを通して、住み続けられるまちづくりやパートナーシップ について考える機会としました。

災害支援募金活動

同年に地域で発生した令和元年東日本台風被害からの復興のための募 金活動を行ないました。活動を通して住み続けられるまちづくりについて考え、自ら行動を起こすきっかけを作りました。

10. SDG s グッズの頒布 SDG s バッジと、ホイールロゴの入ったトートバッグ等の配布を行ないました。SDG s を目にする機会を増やすことで、SDG s に関心を 持ってもらうことにつなげました。

### ① 目的・財務計画・実施 このプログラムの目的を記述してください。

- ・長野市民とSDGsとの接点を増やし、SDGsに対する関心を高め ます。
- ・SDGsは身近にあるものだと知ってもらう事で、SDGsの目的達 成意識を持つことにつなげます。
- ・メンバーを含めた長野市民がSDGSの目標達成のため、自ら行動す るための意欲の向上につなげます。

**このプログラムが、どのように JCI 行動計画に準じているかを記述してください** JCI Plan of Action を参照して、インパクト Impact(影響カ)・モチベート Motivate(意欲)・インベスト Invest(投資)・コ ラボレート Collaborate(協働)・コネクト Connect(つながり)につ いてそれぞれ記載してください

- ・インパクト:800名の市民が参加したことで、市民のSDGSに対するイメージに改革を起こすことにつながりました。
- ・モチベート: 自らの行動がSDGsの目標達成につながるのだという 意識を持ち、能動的な行動を起こすためのきっかけとなりました。
- インベスト:幅広い年齢層、特に学生にも気軽に参加してもらえるよ う参加費用は一切いただきませんでした。将来に対する投資として価値 のある活動です。
- コラボレート:広く同じ目的をもった他団体と協働することで、青年 会議所のみならず他団体同士のつながりが生まれました。広域的に運動 が推進されることが期待できる活動です。
- ・コネクト: SDGSを共通言語とすることで一般市民同士や団体同士 のネットワーク構築が生まれ、地域社会に対してもSDGSを普及する 機会となる活動です。

**予算計画通りにプロジェクトを実行できましたか?** 予算上の工夫や、予算の内訳の概算を記述してください

事業実施の1か月前に発生した台風19号の影響により一部内容の変 更や中止があったため、当初の予算計画からは変更となった部分も少な くありませんでしたが、補正予算計画を組み直すことで計画通りに行な う事が出来ました。

運営費はLOMの資金ですべて賄われており、参加者からは参加費等-切の徴収は行ないませんでした。

- With regional high school students, we considered and discussed about SDGs goals of number 11 and 14. To think about how to resolve the problems, the students earned the opportunity of deep understand about SDGs.
- 4. SDGs Experience Function
- To use originally created cards for a simulation game of regional revitalization, we made an opportunity to feel SDGs is the thing we do to the participants.
- 5. Forum to regard symbiosis by the power of sports
- 6. SDGs Function of thinking about the future of the child
- We held a forum to coexistence between disabled and abled persons though sports presented by a former professional road racer from Nagano city. After this forum, through playing Bocha which is one of the official sports of Paralympics, any difference like age, sex, and the abled or not doesn't matter and WE can compete with each other without any border.
- Paper-cutting experience meeting of the local festival 8. Discussion about the local festival
- Binzuru Festival and Tomyo Festival. We discussed influence of existence of these two major festivals to our living and partnership with several kinds of organizations.
- Collected donations for the tremendous damage of ferocious typhoon hit Nagano city. To donate to ourselves city would be an opportunity to think about our city's future.
- 10. Free distribution of SDGs goods
- We distributed metal badges and carrying bags designed for The designed goods will remind this participants SDGs.

## Objectives, Planning, Finance and Execution What were the objectives of this program? ※200 単語まで

- We enhance contact between Nagano citizens and SDGs, and help to raise participation.
- Familiarizing citizens with SDGs lead to a sense of achievement
- Citizens include NJC member encourages themselves to take the initiative to act on their own.

How does this program align to the JCI Plan of Action?  $\times 200$ 

- Impact: To take part in 800 people in this event, this activity raises an awareness of taking action by those participants to achieve SDGs goals by reforming the image of SDGs.
- Motivation: This activity increases the number of active citizens who are aware that their actions will be able to achieve SDGs goals.
- Invest: This is a worthwhile investment for the future, with no participation fee required so that a wide range of age groups, especially students, can easily participate.
- Collaborate: This is an activity that is expected not only for the JCI, but also for other organizations to connect to, and to promote over a wide area by collaborating with other organizations that have the same purpose.
- Connect: This activity provides the opportunity to spread SDGs to local communities by promoting SDGs as a common language, and creates a network between citizens and groups

Was the budget an effective guide for the financial management of the project? ※150 単語まで

Some changes or cancellations due to the impact of Typhoon No. 19 which occurred one month before of this event caused a number of changes in the original budget plan, but the revised budget plan was carried out as planned.

All operating expenses were covered by LOM funds, and no fees were collected from participants.

このプロジェクトはどのように JCI ミッション・ヴィジョンを推進しま したか

How does this project advance the JCI Mission and Vision? ※200 単語まで

ミッションとヴィジョンに分けて記載

ミッション:より良い変化をもたらす力を青年に与えるために、発展・成長の機会を提供すること

ヴィジョン:若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること

ミッション:来場した市民一人ひとりが、SDGsが身近なものであることを知り関心を持つことで、SDGsに対する意識の変化をうながしました。また、メンバー自らが率先してまちづくりに対しひたむきに活動する中でJayceeとしての責任を自覚し、成長する機会とすることで、JCIミッションを推進しました。

ヴィジョン:地域の高等学校や大学との協働や、子どもたちにSDGSへの興味を抱いてもらえるようなプログラムを通し、将来長野の未来を担う若き能動的市民を育成する主導的な役割を果たすことで、JCIヴィジョンを推進しました。

#### ② メンバーの参加

LOM メンバーの事業参加人数を記述してください。(数字で記載)

147名

LOM メンバーの参加率を記述してください(%で記載)

78 2%

このプログラムにおいて、メンバーの主な役割を記述してください。

委員会ごとに、担当するプログラムの企画・運営を行ないました。また、担当するプログラムの空き時間には担当外のプログラムへオブザーブとして参加することで、SDGSへの理解をより深めました。

一年間各委員会で行なってきた事業の集大成の場でもある事から、広報委員会では事業全体の広報を、政治啓発事業を行ってきた委員会ではそれまでの事業で繋がりのあった学生との協働事業を開催するなど、それぞれの委員会が行なってきたSDGSに紐づけた様々な事業の発信を行ないました。

#### ③ 地域社会への影響

このプロジェクトの地域社会的影響を、どのように測りましたか?

ファンクションやワークショップ等の取り組みごとにアンケートを行ないました。

直接の参加者のみならず見学者を含め来場されたすべての方からの声を集めることで、来場者が感じたことをより広く把握することができました。

来場前からSDGsへの理解が深かった方はもちろん、SDGsを知らなかった方からも、これからは身近なところから活動をしていきたい、とのご意見を多くいただきました。

# このプロジェクトが与えた地域社会への影響を記述してください。

800名の市民が参加したことで市民のSDGsに対するイメージに 改革を起こし、SDGsを地域に広めていくきっかけとなりました。

#### 【参考】

JCI Mission: To provide development opportunities that empower young people to create positive change

JCI Vision: To be the leading global network of young active citizens

Mission: We prompt each of the visiting citizens a change in awareness about town development to know SDGs are in our lives and have interest. In addition, the JCI mission was promoted by members taking the initiative to earnestly work on community development, recognizing their responsibilities as Jaycees, and took this project as an opportunity for growth.

Vision: The project promoted the JCI vision as JCI plays a leading role in fostering young and active citizens who will work for Nagano city in the future, through collaboration with local high schools and universities, and programs that encourage children's interest to SDGs.

#### **Membership Participation**

By number, how many members were involved in this program? ※2 単語まで

147 members

By percentage how many members of the Local Organization were involved in this program? ※1 単語まで

78.2%

Describe the main roles of the participating members in this program. ※300 単語まで

Each committee planned and operated their programs. When it was possible, the members participated as an observer in non-charged programs to deepen their understanding of SDGs.

As a consolidation of the activities conducted through the year, the public relations committee conducted publicity of the entire project, and the committee engaged in political awareness projects held an event in collaboration with students. Each committee carried out various projects that was linked to SDGs.

# **Community Impact**

How did the Local Organization measure community impact for this project? ※200 単語まで

A questionnaire was conducted at each function activity and workshop.

By gathering the opinions of visitors as well as direct participants, we were able to gain a broader understanding of what the visitors felt

Many people who had a deep understanding of SDGs before joining the event, as well as those who did not know about SDGs, said that they would like to work in the future starting with their immediate surroundings.

# Describe the actual community impact produced by this project. ※300 単語まで

Taking part in 800 people in this event would become a start of raising an awareness of taking action by those participants to achieve SDGs goals by reforming the image of SDGs.

# ④ 国連機関または協力者との関連

このプログラムに参加したまたは協力した国連関係機関をリストアッ プしてください。その関係性も記述してください。 (なければ N/A と 記載)

# **Link with UN Agencies or Partnerships**

List any UN Agencies that participated in any way. Describe their involvement. (write N/A if note) ※150 単語まで

N/A

# その他、このプログラムに参加したパートナー(関係者)をリストアッ プしてください。 (なければ N/A と記載)

長野市市長 地域の大学×1校 地域の高校×2校 地域に根付いた団体×6団体 メディア×1社 自治体 その他多数の団体・企業 著名な講師 8名 講師

たかまつなな 氏 ちひろ E. 宮澤 崇史 氏 土橋宏由樹 氏 柳見沢 博 氏 宮澤 崇史 氏 土屋龍一郎 E. 柳沢京

### パートナーは、どのようにこのプロジェクトに参加することになりまし たか?

1年間の委員会の活動の中で共に活動してきた団体や企業等に事業に ついての説明を行ない、プロジェクトへの賛同を頂き参加に至りまし

また、地元である長野市出身のアーティストや、日本で活躍している著 名人に本プロジェクトの趣旨をお伝えし、協力を仰ぎました。

# List any other partners that participated in this program. (write N/A if none) ※100 単語まで

Nagano Prefectural Governor

Nagano City Mayor

One College or University from this area

Two high schools from this area

Six groups or communities working for this are

One TV company

Local government

Other groups and company interesting about this event

Famous Lecturers

Lecturers;.

Ms. Nana Takamatsu

Ms. Chihiro Koshi

Mr. Takashi Miyazawa

Mr. Hiroyuki Dobashi

Mr. Hiroshi Yanemizawa Mr. Takashi Miyazawa

Mr. Ryuichiro Tsuchiya

Ms. Kyoko Yanagisawa

#### How were partners engaged to participate in the program? ※250 単語まで

We explained the project to organizations and companies that worked together during the committee's activities for the year. We earned praise to the project and enabled their participation. In addition, we communicated the purpose of this project to artists from Nagano City and celebrities working actively in Japan, and asked for their cooperation.

# ⑤ プログラムの長期的な影響

# このプロジェクトによって得られると予測される長期的な影響を記述 してください。

SDGsを身近なものとして感じてもらう事で市民のSDGsへのイ メージを大きく変え、SDGsの目的達成意識を持ち、行動を起こすきっかけとなることが期待できます。

さらに、長野青年会議所がネットワークの中心となることで、SDGs を共通言語とした団体同士のつながりが生まれ、SDGsに基づいた運 動が広域的に推進されることが期待できます。

# このプロジェクトの改善点・改善策を記述してください。

※マイナスな表現はしないでください。前向きな改善点を記載しましょ

①複数の委員会や団体が係る事業であるため、関係者が適切に情報共有 するためにも、各プログラムの担当者が議事録や変更における重要であ るポイントの発信を行なう。また各プログラムの担当者が会議に同席す ることで、情報共有をよりスムーズに行なうための配慮が必要です。

②全体スケジュールを構成する際は、来場者が複数のファンクション・ 参加していただけるような工夫を行なう。

本プロジェクトでは正午を避けての時間配分、講師の都合を汲んでの全 体タイムスケジュールとしましたが、当日参加型のファンクションが午 前中に集中し、来場者にとっては複数ファンクションへの参加が難しい 状況になってしまいました。

③子どもや家族連れを想定したファンクションを想定していませんで したが、一日を通して子どもを連れた来場者も見受けられました。子の もや来場者の安全を確保するとともにメンバーの多様化に合わせ、全体 事業においては託児スペースや子どもが遊べるスペースを確保するこ とも検討事項となります。

#### Long-term Impact of the program What is the expected long-term impact of this project? \* 200 単語まで

By impressing SDGs as a familiar matter, we expect that citizens' impression of SDGs will be significantly changed and that they will feel they achieve the SDGs and we expect that citizens will take action

Furthermore, as JCI Nagano continues working at the center of the network, it is expected that links will be created between organizations that work for SDGs as the same purpose, and that movement based on SDGs will be promoted over a wide area.

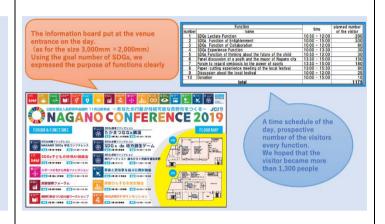
# What changes would you make to improve the results of this project? ※300 単語まで

- (1) Since this is a project involving multiple committees and organizations, the personnel in charge of each program need to send meeting minutes and communicate key points by being present at the meetings in order to ensure that relevant parties can properly share information.
- (2) When making an overall schedule, we need to make it easy for visitors to participate, and make an effort to enable participation in multiple function activities.
- In this project, we tried to avoid scheduling times separating before and after midday for the convenience of the lecturers, however this caused difficulties for visitors to participate in multiple-function activities because many popular drop-in events were held in the morning.
- (3) Although we did not organize function activities for children or families, some participants brought children with them throughout the day. In addition to ensuring the safety of children and visitors, we need to consider preparing a nursery space and a space where children can play during the project in order to

satisfy the diversity of members.

# 「目的・財務計画・実施」項目に添付する画像を下部に貼付してください









# 「メンバーの参加」項目に添付する画像を下部に貼付してください









#### 「地域社会への影響」項目に添付する画像を下部に貼付してください

# ■A function and the number of the visitors

	Function	time	number of the visitor		
number	name	tille	planned	real	proportion
1	SDGs Lecture Function	10:30 - 12:00	290	130	459
2	SDGs Function of Enlightenment	10:00 - 15:00	300	259	869
3	SDGs Function of Collaboration	10:00 - 12:00	80	80	100%
4	SDGs Experience Function	10:00 - 13:30	30	21	70%
5	SDGs Function of thinking about the future of the child	10:30 - 12:00	30	50	167%
6	Panel discussion of a youth and the mayor of Nagano city	13:30 - 15:00	150	65	43%
7	Forum to regard symbiosis by the power of sports	13:30 - 15:00	180	85	47%
8	Paper-cutting experience meeting of the local festival	13:00 - 15:30	80	95	119%
9	Discussion about the local festival	10:00 - 12:00	25	25	100%
10	Donation	10:00 - 15:00	10	10	100%
	total	1175	820	70%	

 Sex. Age | Only as for the visitors who answered a questionnaire |

 age
 under 20
 20s
 30s
 40s
 50s
 over 60
 total

 man
 21
 9
 51
 39
 39
 10
 169

 woman
 36
 11
 30
 27
 9
 9
 122

 total
 57
 20
 81
 66
 48
 19
 291

 proportion
 19.6%
 6.9%
 27.8%
 22.7%
 16.5%
 6.5%
 100.0%

There were a few 20s and 60 years or older participants, but many citizen of the wide age group arrived. The number of the real visitors was 70% degree of planned it

#### Advertisement by WEB

	Indication times	click		
Google	2,294,798	4,290		
Facebook	46,416	726		
Instagram	56,792	229		
Twitter	133,712	493		
total	2,531,718	5,738		

As well as the advertisement in the print medium, we utilized advertisements by various SNS so that information arrived in the people who was not interested in SDGs.

Reaction for the contribution of Facebook								
day	reach	Like	share	at the day	reach	Like	share	
2019/10/3	850	31	18	2019/11/23	209	6		
2019/10/4	914	72	34	2019/11/23	215	15		
2019/10/8	660	51	28	2019/11/23	229	9		
2019/10/9	690	31		2019/11/23	248	13		
2019/10/10	1,034	43		2019/11/23	371	22	3	
2019/11/8	1.152	57	54	2019/11/23	484	26	7	
2019/11/9	1,240	107	92	2019/11/23	322	21	2	
2019/11/13	763	43	31	2019/11/23	417	36	2	
2019/11/15	1,249	64	64	53	2019/11/23	263	16	2
2019/11/16	867	52	37	2019/11/23	470	40	20	
2019/11/19	601	41	16					
2019/11/19	344	18	4					
2019/11/20	403	20	13	total	14.638	874	504	
2019/11/22	643	40	25	total	14,638	0/4	504	

# ■Press interview

# ■Media publication

media		entry	II	day	media	content
	The Yomiuri Shimbun	0	Ш	2019/10/4	TV Shinshu Broadcasting Co.	introduce by TV
Major paper	The Mainichi Shinbun		Ш	2019/10/15	The Nagano keizai shinbun	introduce in a newspaper
	The Asahi Shinbun			2019/11/2	Weekly Nagano	introduce in a spaper
	The Chunichi Shimbun	0		2019/11/18	Nagano Joho	introduce in a spaper
	The Shinano Mainichi Shimbun	0	2019/11/21	The Nagano shimin shinbun	introduce in a newspaper	
Local paper	The Nagano keizai shinbun	0	°		The Shinano Mainichi Shimbun	introduce in a newspaper
	the Nagano shimin shinbun				The Shinano Mainichi Shimbun	introduce in a newspaper
	Weekly Nagano				The Shinano Mainichi Shimbun	Report
	NHK					
	Nagano Broadcasting Systems Inc		Ш	on the day	The Nagano keizai shinbun	Report
TV media	TV Shinshu Broadcasting Co.	0	Ш	on the day	The Nagano shimin shinbun	Report
IV media	Shin-etsu Broadcasting Co.		Ш	2019/11/30	The Nagano shimin shinbun	introduce in a newspaper
	Asahi Broadcasting Nagano Co.		Ш	2019/12/5	The Nagano keizai shinbun	introduce in a newspaper
	Nagano CATV		Ш			
Local free paper	Local free paper Nagano Joho					
			_			

Five newspaper publishers collected data on it at a press conference.

The prior notice was carried out by five media. In this way, it led to advertise this project to many citizen widely. In addition, on the day three media collected data on it, and two media sent the result of it later date. We was able to perform project which was interested in from the media.







# 「プログラムの長期的な影響」項目に添付する画像を下部に貼付してください ■Questionnaire results Did you feel SDGs close and understand ■The new exercise that was born with this project About the action target that you decided by oneself, do you seem to be able to carry it out immediately? NPO Nagano NPO Center ■Yes ■partly ■NO "Youth Reach" ■Yes 44% ■Maybe 50% ■NO 6% After "3.SDGs Function of Collaboration", some high Was it an opportunity to raise awareness to take action for accomplishment of SDGs? school student who belonged to NPO"Youth Reach "called to an other participation student to talk about promotion of SDGs future. Most respondents replied understanding for SDGs deepened, and they had will to act for ■partly ■NO Through this project, We made a new network and opportunity that brought an action change. accomplishment.

